

イエスの最後のメッセージ「助け手」(7)

メッセージノート 2022.2.27

ヨハネ 14:15-24 ¹⁵わたしを愛するなら、わたしの戒めを守りなさい。¹⁶わたしは父に、もう一人の助け手を送っていただくようお願いします。その助け手は、いつもあなたがたと共におられます。¹⁷その方とは聖霊、すなわち、すべてを真理へと導いてくださる霊のことです。世は、この方を受け入れることができません。この方を求めもしなければ、認めようとしなからず。しかし、あなたがたはこの方を知っています。あなたがたと共に住み、あなたがたのうちにおられるからです。¹⁸わたしはあなたがたを見捨てたり、孤児のように置き去りにしたりすることなどありません。必ずあなたがたのところに帰って来ます。¹⁹もうすぐわたしはこの世を去りますが、それでもなおいっしょにいるのです。わたしはよみがえり、あなたがたもいのちを受けるからです。

1. 聖霊とは？

a. 「助け手 (パラカレオ) 」(16)

- ・ 「パラ」は隣、「カレオ」は呼ぶ、あるいは語る。「隣に呼んでくださる」「傍で語りかける」の意味。そこから(1)擁護者、弁護人(天の裁きの座で)；友だち (2)力を与えてくださる方(Empowerer)の意味になる。
- ・ 第一義が、「擁護者」であり、神は私たちのことを責めたり、怒ったりしているのではなく、贖い主であるということ。これが人生の土台であり、それゆえ過去に縛られることなく、前に向かって生きることのできるのだ。
- ・ そして、これから将来に向かって生きる「力」をも日々与えてくださる。弁護し、力を与えるのが聖霊である。

b. 「もう一人(別)の助け主」(16)

- ・ イエスの別人格のことで、イエスが去った後「いつもあなたがたと共におられる」(16)、どんなことでも相談に乗ってくれる親友である。イエスが、弟子たちの個人的ニーズや質問に答えたように、助け手も私たちにされる。
- ・ 「もう一人の助け主」とは、二千年前に、弟子たちと共にこの地上を歩まれたイエスのリアリティと同じ現実味をこの聖霊は私たちに与えるという意味。

c. 「聖霊」(17)

- ・ イエスはこの最後のメッセージの中で、3回にわたって聖霊について説明されている → 14:17, 15:26, 16:13。
- ・ 14章では、真理に導くこと。孤児にしない(ずっと離さない)。教えを思い起こさせる。平安を与えるについて。

2. 「真理へ導く御霊」(17)

- ・ 6節でイエスは、ご自分が、「道であり、真理であり、いのちである」と仰せられたが、主が示される「道」に沿って歩いていくなれば、神が用意された正しい目的地(真理)に到着することができるということだった。
- ・ 聖書で「真理」という場合、それは「福音の真理」。すなわち、十字架による贖いの奥義を知り、それを生きるという意味である。それは、十字架の赦しを経験し、その奥義を人生の中で実践していくことに他ならない。
- ・ 換言すると、「真理の御霊」とは、愛の御霊ということであり、キリストの愛を受け、私たちが愛の人として変えられていくということ。そして、その変わる力がこの愛の御霊にはあるということである。

ローマ 5:5 わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。

ヨハネ 4: 34 わたしの食べ物とは、わたしをお遣わしになった方の御心を行い、その業を成し遂げることである。

3. 「孤児にしない」(18)

- ・ 「見捨てたり、孤児のように置き去りにしたりしない」という約束は、人間の根底にある恐れを理解した言葉。

- ・ 「パラカレオ」の第一義が弁護するであったように、神は、私たちの「見捨てられることへの恐れ」に、深い理解を示すと共に、常に親友として励まし助けの手を備えておられる。
- ・ (例) 生まれながら盲人であった男性の癒しがきっかけとなって、イエスに関する論争が始まる。その結果、人々の霊的盲目さが露呈する。そうした中で、この男性は振り回され、再び社会から見捨てられてしまう。そのことを知ったイエスは、この男性に対して、まさに「助け手」となられた記事をヨハネは詳細に記す。

ヨハネ 9:1-41 ¹さて、道を歩いていた時のこと、イエスは生まれつきの盲人をごらんになりました。²そこで、弟子たちが尋ねました。「先生。どうしてこの人は、生まれつき目が見えないのですか。本人が罪を犯したからですか。それとも両親ですか。」³「いや、そのどちらでもありません。ただ神の力が現されるためです。⁴わたしたちは、わたしをお遣わしになった方に命じられた仕事を、急いでやり遂げなければなりません。もうすぐ夜が来ます。そうしたら、もう仕事はできないのですから。⁵しかし、まだこの世にわたしがいる間は、わたしが光となります。」⁶こう言われると、イエスは地面につばをして泥を作り、それを盲人の目に塗って、⁷言われました。「さあ、シロアムの池に行って洗い落としなさい」〔「シロアム」とは、「遣わされた者」の意味〕。イエスが言われたとおりにすると、どうでしょう。彼は見えるようになって戻って来たではありませんか。・・・³⁵そのいきさつを伝え聞いたイエスは、男を捜し、見つけ出されると、「あなたはメシヤを信じますか」とお聞きになりました。³⁶「先生。どなたがメシヤ様なのでしょうか。教えてください。ぜひ信じたいのです。」³⁷「もうその人に会っているのですよ。あなたと話しているわたしがメシヤなのです。」³⁸「主よ。信じます。」男はそう言って、イエスを礼拝しました。³⁹するとイエスは言われました。「わたしがこの世に来たのは、心の目の見えない人を見るようにするため、また、見えると思いついでいる人に、実は盲目だということをわからせるためなのです。」

- この男性の立場に自分の身を置いて考えてみよう：「神の業が現されるため」
 - a. ここでまず悲しいことは、この男性の癒しを一緒に喜んでくれた人はいなかったということだ。
 - b. 論争が起こった時、両親も含めて、この男性の友になってくれた人（彼の側に立ってくれた人）は誰もいなかった。そして、最終的には、再び社会のけ者として追放させられる。
 - c. しかし、「見捨てたり、孤児のように置き去りにしたりしない」イエスが、そんな彼を省みておられ、探し出し、励まし、導かれた時、彼は、どう感じたことだろう？これが聖霊のさされることだ。
- 神の愛の業が現され続けるため
 - a. 彼が盲目で生まれてきたのは、神の力（業「エルゴン」）が現されるためだとイエスは答えたが、時制を見ると、受身の継続形で、神の愛が、彼を癒すだけでなく、必要な助けがその後もずっと提供され続けていく。
 - b. 今日の文脈で見ると、神の愛は、彼を擁護し、友達となり、必要な力をお与え、正しい道（真理）へと導かれるという一連の業の中に遺憾なく現されている。
 - c. シロアムの池まで彼は、どんな気持ちで向かったことだろう。疑うことはなかったのだろうか？この信じて踏み出すことが、彼のその後の信仰生活にも重要なあり方を学ばせることになったのではないかと

まとめ

1. 神との友情をこれまでどこまで意識してきただろうか？どうしたらもっとこの友情を深めることができるか？
2. 神があなたの弁護者であり、力を与えられる源であることを日々どこまで経験しているだろうか？
3. 盲人だった人へのイエスの思いやりから、今もしここにイエスがおられたら、あなたに何と言われると思うか？
4. あなたにも目を留め、真理の御霊（神の愛）を注ぎ続けておられることを実感できるよう霊的目を開いていただけるよう祈り求めよう。